

7－1 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動（2025 年 11 月～2026 年 4 月）
Seismic Activity in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku Districts
(November 2025 – April 2026)

気象庁 大阪管区気象台
Osaka Regional Headquarters, JMA

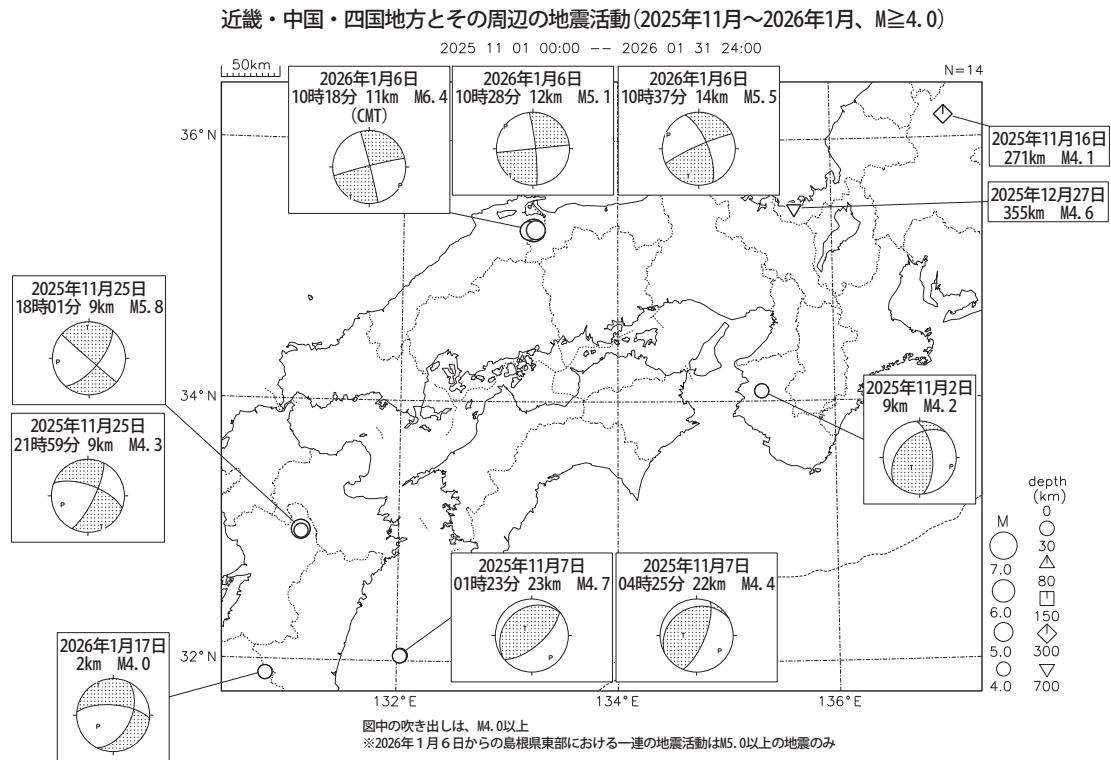
今期間、近畿・中国・四国地方とその周辺で M4.0 以上の地震は 22 回発生した。これらのうち、規模が最大の地震は、2026 年 1 月 6 日に島根県東部で発生した M6.4 の地震であった。

2025 年 11 月～2026 年 4 月の M4.0 以上の地震の震央分布を第 1 図 (a) 及び (b) に示す。

主な地震活動は以下のとおりである。

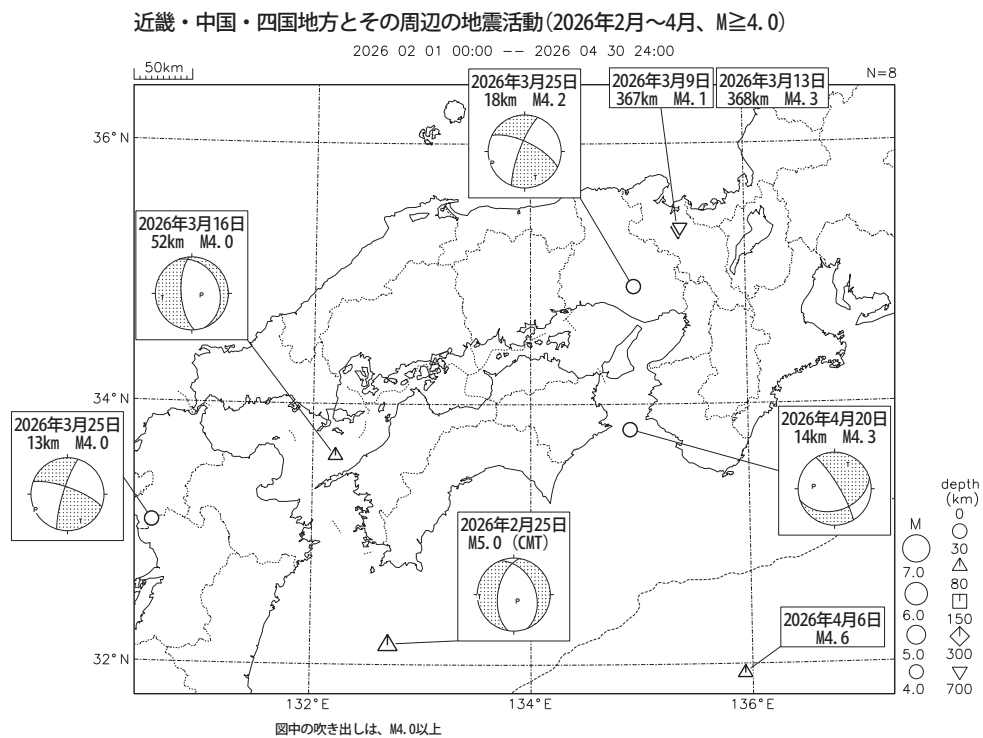
(1) 島根県東部の地震（M6.4，最大震度 5 強，第 2 図 (a)～(e)）

2026 年 1 月 6 日 10 時 18 分に島根県東部の深さ 11km で M6.4 の地震（最大震度 5 強）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の発生直後、震央付近では 6 日 10 時 28 分に M5.1 の地震（最大震度 5 弱）及び同日 10 時 37 分に M5.5 の地震（最大震度 4）が発生した。1 月 6 日から 4 月 30 日までに震度 1 以上を観測した地震は 68 回（震度 5 強：1 回，震度 5 弱：1 回，震度 4：1 回，震度 3：6 回，震度 2：17 回，震度 1：42 回）発生した。



第 1 図 (a) 近畿・中国・四国地方とその周辺の地震活動 (2025 年 11 月～2026 年 1 月, $M \geq 4.0$, 深さ ≤ 700 km)

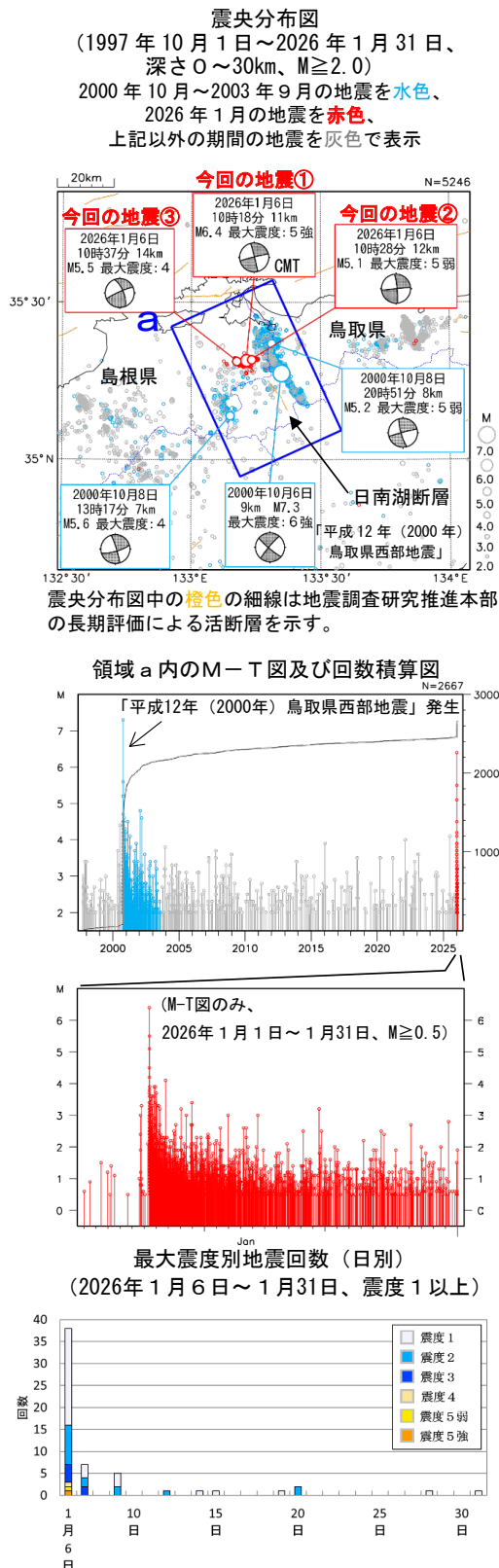
Fig. 1(a) Seismic activity in and around the Kinki, Chugoku and Shikoku districts (November 2025 – January 2026, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).



第 1 図 (b) つづき (2026 年 2 月～4 月, $M \geq 4.0$, 深さ ≤ 700 km)

Fig. 1(b) Continued (February – April 2026, $M \geq 4.0$, depth ≤ 700 km).

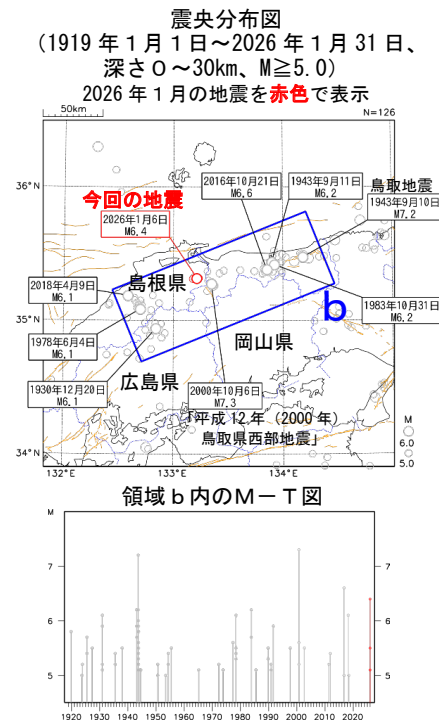
1月6日 島根県東部の地震



2026年1月6日10時18分に島根県東部の深さ11kmでM6.4の地震(最大震度5強、図中①)が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構(CMT解)は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央付近では、5日16時43分にM3.0の地震(最大震度1)及び同日18時42分にM3.3の地震(最大震度2)が発生した。また、M6.4の地震発生後には、6日10時28分にM5.1の地震(最大震度5弱、図中②)及び同日10時37分にM5.5の地震(最大震度4、図中③)が発生するなど、M5.0を超える地震が発生した。6日から31日までに震度1以上を観測した地震が58回(震度5強:1回、震度5弱:1回、震度4:1回、震度3:6回、震度2:16回、震度1:33回)発生した。この地震により、負傷者15人、住家一部破損114棟の被害が生じた(被害は2026年1月14日17時00分現在、総務省消防庁による)。

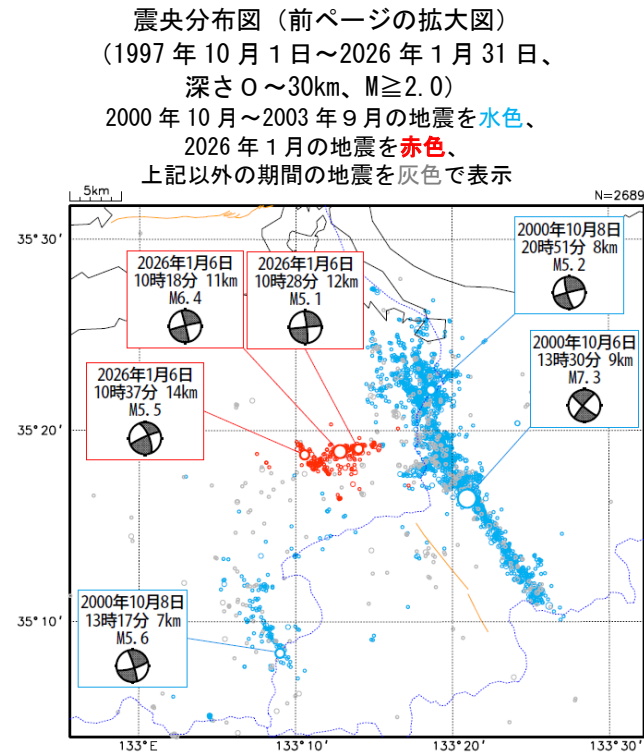
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域a)では、「平成12年(2000年)鳥取県西部地震」が発生している。この地震により、負傷者182人、住家全壊435棟などの被害が生じた(被害は総務省消防庁による)。

1919年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺(領域b)では、M6.0程度の地震が時々発生している。このうち、1943年9月10日に発生したM7.2の地震(鳥取地震、最大震度6)では、死者1,083人、住家全壊7,485棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

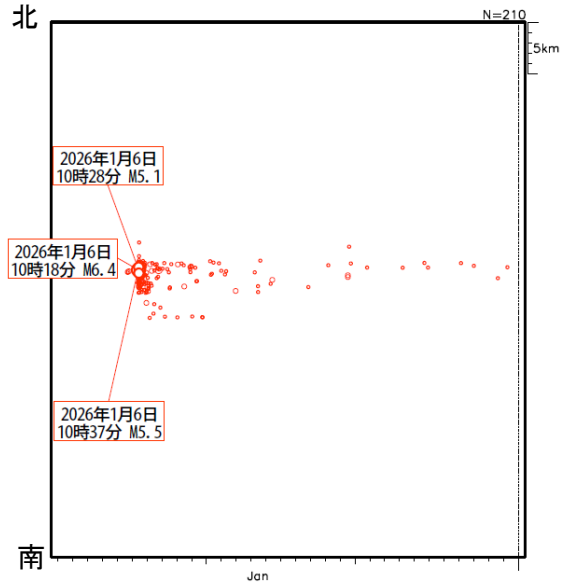


第2図(a) 2026年1月6日の島根県東部の地震

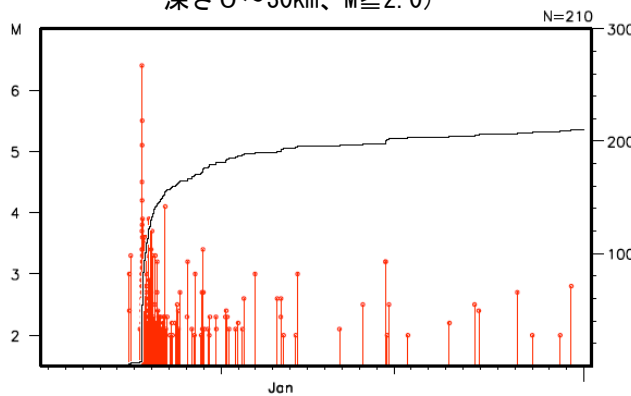
Fig. 2(a) The earthquake in the eastern part of Shimane Prefecture on January 6, 2026.



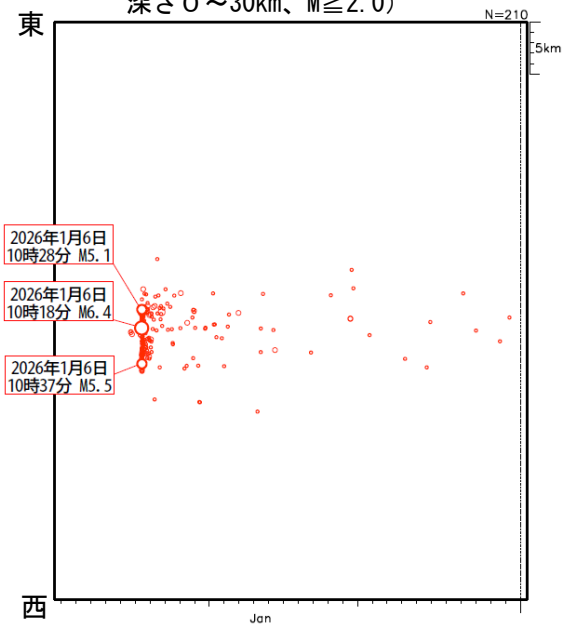
震央分布図内の時空間分布図（南北投影）
 (2026 年 1 月 1 日～1 月 31 日、
 深さ 0 ～30km、 $M \geq 2.0$)



震央分布図内のM-T回数積算図
 (2026 年 1 月 1 日～1 月 31 日、
 深さ 0 ～30km、 $M \geq 2.0$)



震央分布図内の時空間分布図（東西投影）
 (2026 年 1 月 1 日～1 月 31 日、
 深さ 0 ～30km、 $M \geq 2.0$)

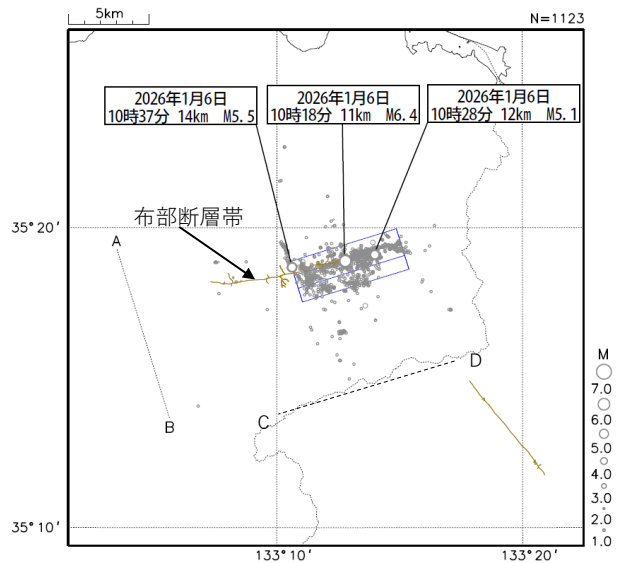


第 2 図 (b) つづき
 Fig.2(b) Continued.

1月6日 島根県東部の地震

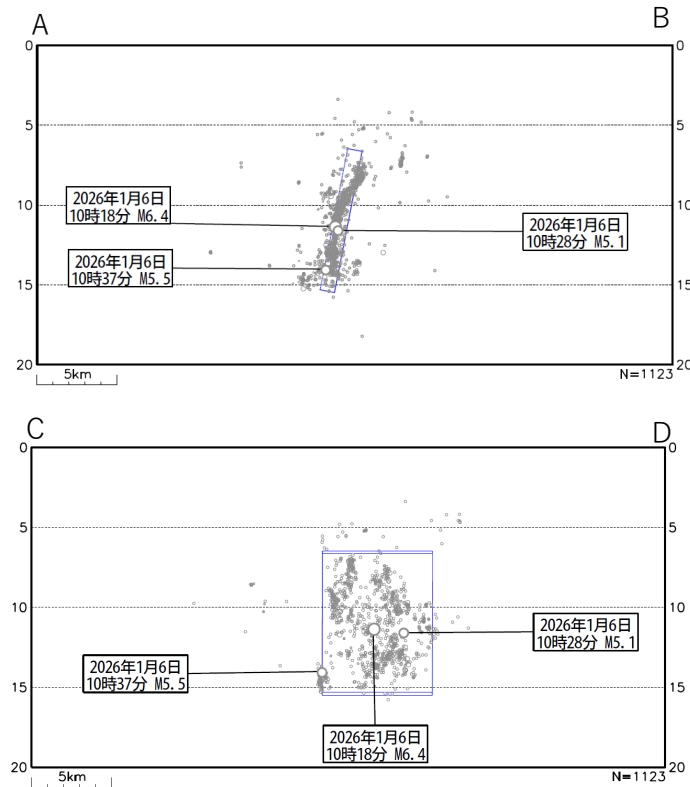
FaultNo	Lon	Lat	Depth(km)	Strike	Dip	Length(km)	Width(km)	Thickness(km)	Planarity	Sd_strike	Sd_dip
1	133.2	35.3	11.0	252.8	78.9	6.9	9.0	0.9	9.5	0.7	0.7

左図：DD震源の震央分布図(2026年1月
1日～20日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-20km)
右上図：DD震源の断面図（A-B投影）
右下図：DD震源の断面図（C-D投影）



図の青枠線は推定された断層面の形状を表す。

図の茶色の線は「活断層詳細デジタルマップ（東京大学出版会、2002）」による活断層を示す



PCA（主成分分析）を用いて
断層面の推定を行った。
推定された形状は上記記載の
表のとおり。

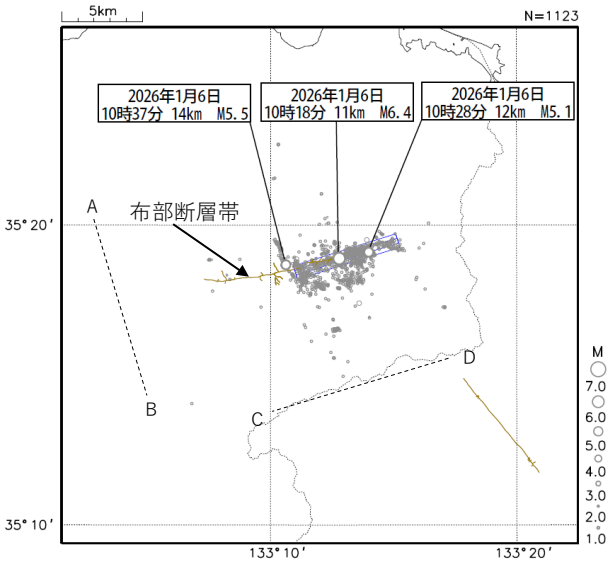
第2図(c) つづき

Fig. 2(c) Continued.

1月6日 島根県東部の地震

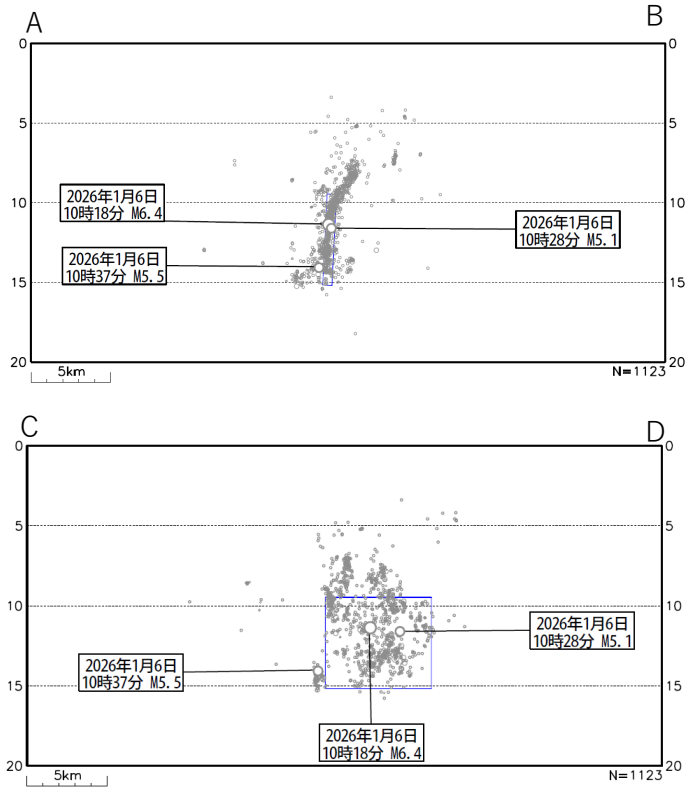
FaultNo	Lon	Lat	Depth(km)	Strike	Dip	Length(km)	Width(km)	Thickness(km)	Planarity	Sd_strike	Sd_dip
1	133.2	35.3	12.3	252.5	87.2	6.6	5.7	0.6	9.4	0.6	1.1

左図：DD震源の震央分布図(2026年1月1日～20日、 $M \geq 1.0$ 、深さ0-20km)
 右上図：DD震源の断面図（A-B投影）
 右下図：DD震源の断面図（C-D投影）



図の青枠線は推定された断層面の形状(10km以深)を表す。

図の茶色の線は「活断層詳細デジタルマップ（東京大学出版会、2002）」による活断層を示す



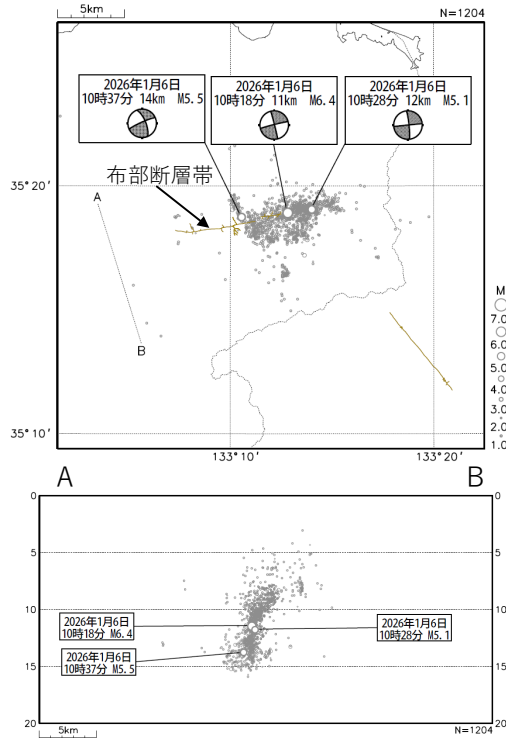
PCA（主成分分析）を用いて、**10km以深**のデータ（注1）（注2）について断層面の推定を行った。
 推定された形状は上記記載の表のとおり。

（注1）10km以浅のデータについては、平面性を確保できなかったため記載していない。
 （Planarity= $\lambda_2/\lambda_3=5.6$ ）
 （注2）1月16日10時37分M5.5の地震が含まれるクラスターは除いて解析している。

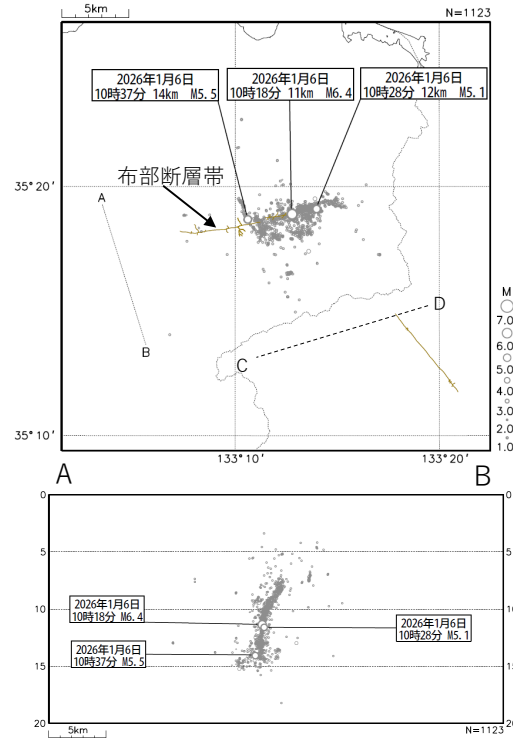
第2図(c) つづき
 Fig. 2(c) Continued.

1月6日 島根県東部の地震

上図：一元化震源の震央分布図(2026年 1月1日～20日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 0-20km)
下図：一元化震源の断面図 (A-B投影)

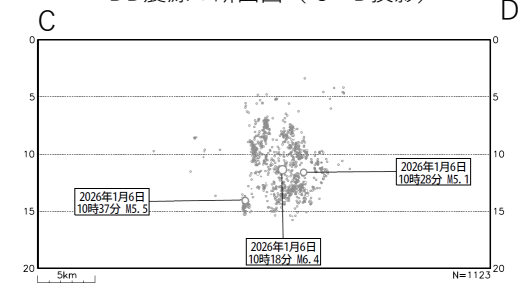


上図：DD震源の震央分布図(2026年 1月1日～20日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 0-20km)
下図：DD震源の断面図 (A-B投影)



1月1日から20日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。

DD震源の断面図 (C-D投影)

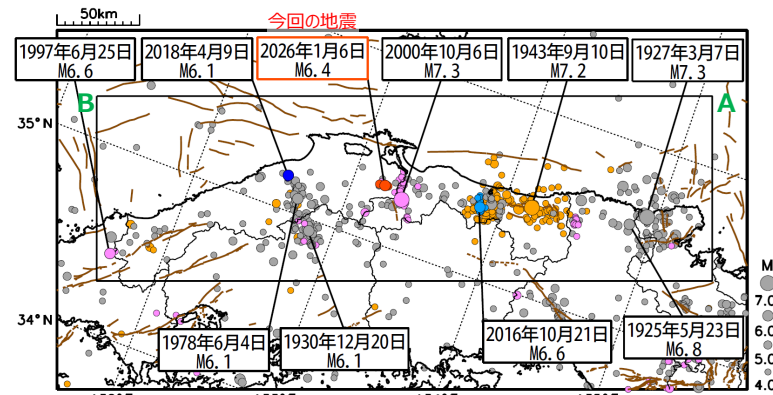


図の茶色の線は、「活断層詳細デジタルマップ (東京大学出版会、2002)」による活断層を示す

第2図 (d) つづき
Fig. 2(d) Continued.

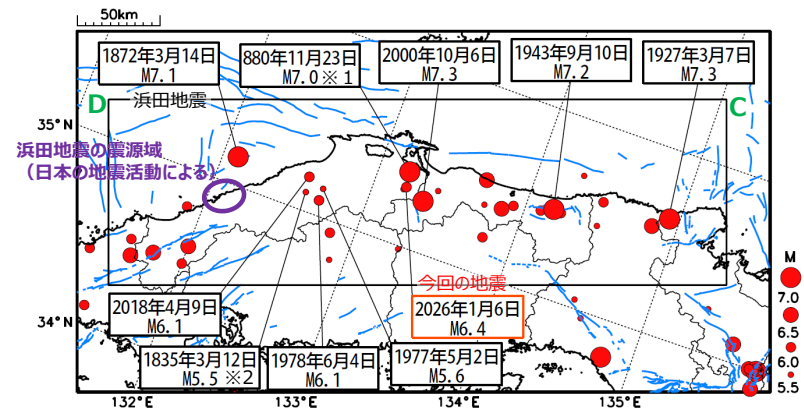
1月6日 島根県東部の地震（周辺の過去の地震活動）

震央分布図（1919年1月1日～2026年1月28日、 $M \geq 4.0$ 、30km以浅）



茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

震央分布図（466年～2026年1月6日、 $M \geq 5.5$ の被害地震、30km以浅）



青線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

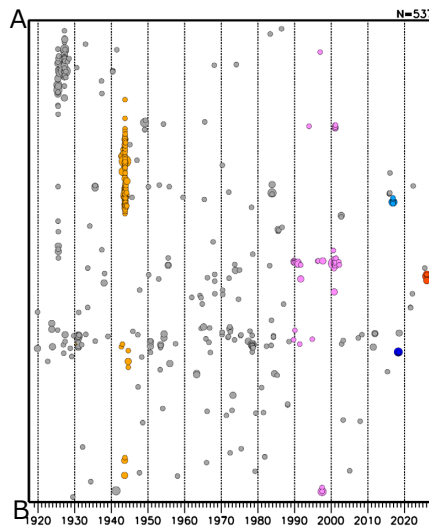
※1
社寺・民家の破損が多く、震央は当時の国府に置かれている【日本被害地震総覧より】。また、中田ほか（2005）のトレンチ調査の結果、宍道（鹿島）断層の最新活動が880年の地震に対応する可能性が指摘されている【宍道（鹿島）断層の長期評価より】。

※2
島根県高畑村で石地藏・石塔・墓石など倒れ、蔵の壁破る。久保・長原で石垣崩る【以上、日本被害地震総覧より】。

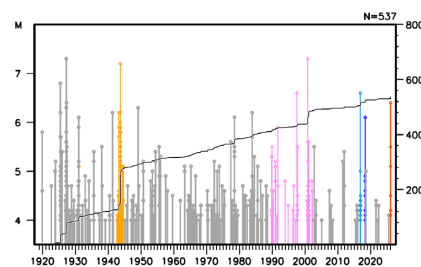
震源要素は1884年までは理科年表、1885年～1922年は宇津によるカタログ（宇津（1982、1985）、茅野・宇津（2001）など）を使用した。

■：江戸時代より前
■：江戸時代～1884年（宇津カタログ以前）

上図矩形内の時空間分布（AB投影）

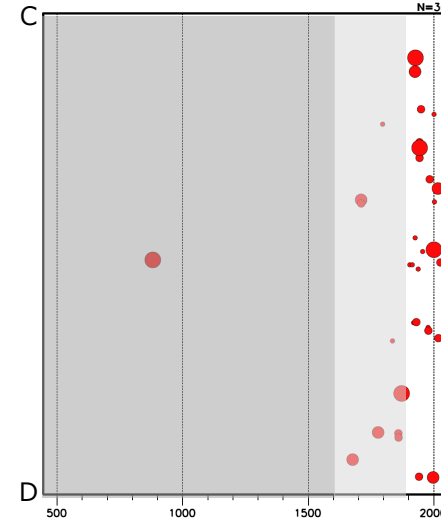


上図矩形内のMT・回数積算図



橙色：1942年1月1日～1944年12月31日
桃色：1989年1月1日～2002年4月5日
水色：2016年10月1日～10月31日
青色：2018年4月1日～30日
赤色：2026年1月1日～28日
灰色：上記以外の期間

上図矩形内の時空間分布（CD投影）



第2図(e) つづき

Fig. 2(e) Continued.